



南日本銀行

第108期 定時株主総会

招集ご通知

日時

平成28年 6月29日（水曜日）
午前10時

場所

鹿児島市山下町1番1号
当行本店4階ホール

目次

第108期定時株主総会招集ご通知	1
議決権の行使方法のご案内	3
議決権行使書のご記入にあたってのご注意	4
事業報告	5
連結計算書類	22
計算書類	25
監査報告書	30
株主総会参考書類	34

証券コード 8554
平成28年6月13日

株 主 各 位

鹿児島市山下町1番1号
株式会社 **南日本銀行**
取締役頭取 森 俊 英

第108期定時株主総会招集ご通知

拝啓 平素は格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。

さて、当行第108期定時株主総会を下記のとおり開催いたしますので、ご出席くださいますようご通知申し上げます。

なお、当日ご出席願えない場合は、書面によって議決権を行使することができませんので、お手数ながら後記の株主総会参考書類をご検討のうえ、同封の議決権行使書用紙に賛否をご表示いただき、平成28年6月28日（火曜日）午後5時30分までに到着するよう折り返しご送付くださいますようお願い申し上げます。

敬 具

記

1. 日 時 平成28年6月29日（水曜日）午前10時
2. 場 所 鹿児島市山下町1番1号 当行本店4階ホール
3. 目的事項
報告事項
 1. 第108期（平成27年4月1日から平成28年3月31日まで）事業報告の内容、連結計算書類の内容ならびに会計監査人及び監査役会の連結計算書類監査結果報告の件
 2. 第108期（平成27年4月1日から平成28年3月31日まで）計算書類の内容報告の件

決 議 事 項

< 会社提案（第1号議案及び第2号議案） >

第1号議案 剰余金処分の件

第2号議案 取締役8名選任の件

< 株主提案（第3号議案及び第4号議案） >

第3号議案 定款一部変更の件（日本銀行にマイナス金利政策撤廃の要望書提出）

第4号議案 定款一部変更の件（公的資金全額返済）

株主提案（第3号議案及び第4号議案）の議案の要領は、後記「株主総会参考書類」に記載のとおりであります。

以 上

- ◎ 当日ご出席の際は、お手数ながら同封の**議決権行使書用紙**を会場受付にご提出くださいますようお願い申し上げます。
- ◎ 本招集ご通知に際して提供すべき書類のうち「連結計算書類の連結注記表」及び「計算書類の個別注記表」につきましては、法令及び当行定款第16条の規定に基づき、インターネット上の当行ウェブサイト（<http://nangin.jp>）に掲載しておりますので本添付書類には記載しておりません。なお本招集ご通知の添付書類に記載しております連結計算書類及び計算書類は、会計監査人が会計監査報告を作成するに際して監査をした書類の一部であります。
- ◎ 株主総会参考書類ならびに事業報告、連結計算書類及び計算書類に修正が生じた場合は、インターネット上の当行ウェブサイト（<http://nangin.jp>）に掲載させていただきます。
- ◎ 当日は**軽装（クールビズ）**にて実施させていただきますので、株主さまにおかれましても軽装でご出席くださいますようお願い申し上げます。

議決権の行使方法のご案内

下記のいずれかの方法により議決権の行使をお願いします。



1 株主総会に出席する場合

株主総会開催日時

平成28年6月29日（水曜日）午前10時

同封の議決権行使書用紙を会場受付にご提出ください。



2 議決権行使書を郵送する場合

行使期限

平成28年6月28日（火曜日）午後5時30分到着分まで

同封の議決権行使書用紙に各議案に対する賛否をご表示のうえ、平成28年6月28日（火曜日）午後5時30分までに到着するようご返送ください。

▶▶ [次頁をご覧ください。](#)

議決権行使書のご記入にあたってのご注意

本定時株主総会におきまして、株主さま（2名：議決権の数311個）より、株主提案権の行使（以下、「株主提案」といいます。）に関する書面を受領いたしております。

その内容は、「株主総会参考書類」の40ページから41ページに第3号議案及び第4号議案として記載しております。

当行取締役会は、それぞれの株主提案に対し、反対する旨の意見を記載しております。株主提案にご賛成の場合は「株主提案に対する賛否」記入欄の「賛」に、当行取締役会の意見にご賛成の場合は、「株主提案に対する賛否」記入欄の「否」の欄に○印をご表示願います。

なお、各議案に対して賛否の表示をされない場合は、会社提案には「賛」、株主提案については「否」の表示があったものとして取り扱うこととさせていただきます。

議決権行使書用紙イメージ

<p>議決権行使書</p> <p>株式会社 南日本銀行 御中</p> <p>株主番号</p> <p>議決権行使個数</p> <p>個</p> <p>私は、平成28年6月29日開催の貴行第108期定時株主総会（継続会または延会を含む）における議案につき、右記（賛否を○印で表示）のとおり議決権を行使します。</p> <p>平成28年6月 日</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>当銀行は、各議案につき賛否の表示がない場合は、会社提案については賛、株主提案については否の表示があったものとしてお取扱いたします。</p> </div>	<table border="1" style="margin: auto;"> <tr> <th colspan="2">会社提案</th> </tr> <tr> <td>第1号 議案</td> <td>第2号 議案 <small>(下の枠へ #を移す)</small></td> </tr> <tr> <td>賛</td> <td>賛</td> </tr> <tr> <td>否</td> <td>否</td> </tr> </table> <table border="1" style="margin: auto;"> <tr> <th colspan="2">株主提案</th> </tr> <tr> <td>第3号 議案</td> <td>第4号 議案</td> </tr> <tr> <td>賛</td> <td>賛</td> </tr> <tr> <td>否</td> <td>否</td> </tr> </table> <p style="color: blue; font-weight: bold; margin-top: 10px;">※こちらに各議案の 賛否をご表示ください。</p>	会社提案		第1号 議案	第2号 議案 <small>(下の枠へ #を移す)</small>	賛	賛	否	否	株主提案		第3号 議案	第4号 議案	賛	賛	否	否	<p>お 願 い</p> <ol style="list-style-type: none"> 株主総会にご出席の際は、左の議決権行使書用紙を会場受付にご提出ください。なお、議決権行使書用紙ご提出をもって定時株主総会出席票に代えさせていただきます。 株主総会にご出席願えない場合は、議決権行使書用紙に賛否を表示し、この部分を切り取り、平成28年6月28日（火曜日）午後5時30分までに到着するようご返送ください。 第2号議案の賛否を表示される際、一部の候補者につき異なる意思を表示される場合は、「株主総会参考書類」に記載の当該候補者の番号をご記入ください。 <p style="text-align: right; margin-top: 20px;">株式会社 南日本銀行</p>
会社提案																		
第1号 議案	第2号 議案 <small>(下の枠へ #を移す)</small>																	
賛	賛																	
否	否																	
株主提案																		
第3号 議案	第4号 議案																	
賛	賛																	
否	否																	

（ご注意） 1. 当行取締役会は、株主提案についてそのいずれにも反対しております。
2. 第3号議案、第4号議案につき、株主提案に賛成の場合は「賛」に、当行取締役会意見に賛成の場合は、「否」に○印でご表示ください。

(添付書類)

事業報告

(平成27年4月1日から
平成28年3月31日まで)

1. 当行の現況に関する事項

(1) 企業集団の事業の経過及び成果等

【金融経済環境】

当連結会計年度のわが国経済は、金融・財政面での政策効果が広く波及したことにより、都心部を中心に公共投資や住宅投資が底堅く推移する中、企業収益の改善等を背景として雇用情勢の好転や個人消費・設備投資に持ち直しの動きが見られるなど、全体としては緩やかな回復基調が続きました。

一方、県内経済におきましては、観光面や個人消費面が底堅く推移する中、雇用環境も改善するなど、全体としては緩やかな回復基調にあるものの、先行きについては一部不透明な状況にあります。

【事業の経過及び成果】

このような経営環境のもと、当行は平成26年度より『中期経営計画「なんぎん維新Ⅱ」～“地域力” クリエイトバンクへの挑戦～』をスタートさせており、「本業」として「WIN-WINネット業務（新販路開拓コンサルティング）」に取り組むなど、地域の皆様のご支援にお応えできるよう銀行全体で組織的・継続的に取り組んできました。当行グループを挙げて「収益力の強化」「経営の効率化」「資産の健全化」などの経営内容の充実に努めた結果、当連結会計年度の業績は以下の通りとなりました。

<預金>

預金は、安定した資金調達を第一に考え、一般の個人・法人預金を中心に増強を図った結果、当連結会計年度末の残高は、前連結会計年度末に比べ151億円増加して7,160億円となりました。

<貸出金>

貸出金は、中小企業貸出や個人ローン等を中心に増強を図った結果、当連結会計年度末の残高は、前連結会計年度末に比べ140億円増加して5,727億円となりました。

<有価証券>

有価証券は、前連結会計年度末に比べ3億円増加して1,059億円となりました。

<損益>

当連結会計年度の経常収益は、有価証券売却益及び役員取引等収益の増加により、前連結会計年度に比べ9億95百万円増加して202億4百万円となりました。

一方、経常費用は、経費が減少したものの、与信関連費用及び預金利息等の増加により、前連結会計年度に比べ3億83百万円増加して160億46百万円となりました。

以上の結果、経常利益は、前連結会計年度に比べ6億12百万円増加して41億57百万円となりました。親会社株主に帰属する当期純利益は、退職給付信託設定益を主とする特別利益が減少したことから、前連結会計年度に比べ3億61百万円減少して22億17百万円となりました。

<店舗関係>

平成28年3月に、駐車設備の拡充などお客様の利便性向上を図るため、笠之原支店を移転リニューアルオープンしました。

また、店舗外CD及びATMにつきましては、2カ所の新規設置を行いました。併せて4カ所のATMを廃止いたしましたので、平成28年3月末現在で100カ所の設置となっております。平成26年4月にはセブン銀行とのATM利用提携を開始しており、お引き出しについては、ほぼ24時間利用可能となるなど、利便性の向上に努めております。

<金融サービス>

金融サービス面では、退職金の運用ニーズに応える「一期一得定期預金」を昨年度に引き続き販売したほか、平成30年に明治維新150年を迎えることを記念し、特別金利に加え鹿児島にゆかりのある長崎・佐賀両県の名産品や旅行券を抽選賞品とした「明治維新観光定期預金」等を発売いたしました。加えて、株主の皆様へ日頃のご支援にお応えするため、「株主優遇定期預金」も販売しており、商品ラインナップの充実に努めております。

また、ミナミネット支店（平成23年4月開設）において非対面での24時間インターネット、携帯電話等によるローン申込みの受付を行っており、平成27年度においては、利用可能額や金利を見直すなどの、お客様のニーズを重視した商品内容の拡充を図っております。

更に、地元取引先事業者に対しては、お取引先の本業支援策である「WIN-WINネット業務」（平成23年10月より開始）に取り組んでおり、平成26年度からは、当行による経営改善が必要なお客様に対し、事業再生型「WIN-WINネット業務」に取り組むなど、地域経済活性化に向けた取り組みを加速させております。

また、「金融円滑化相談窓口」「中小企業相談窓口」を設置しており、コンサルティング機能の発揮により、中小企業等の皆様の資金繰りや経営改善支援に引き続き対応しております。

今後も、新商品の開発やお客様へのサービスの充実に積極的に取り組んでまいります。

【対処すべき課題】

地域金融機関を取り巻く経営環境は、顧客ニーズの多様化や金融機関同士の競争激化、また、中長期的には人口減少が見込まれる中で、厳しさを増しております。このような中、当行は地元鹿児島を中心とした地域経済の活性化に取り組むことで、地域を底上げ・下支えするとともに、継続的な収益を確保する必要があると考えております。

当行は平成26年4月より『中期経営計画「なんざん維新Ⅱ」～“地域力” クリエイトバンクへの挑戦～』をスタートさせています。本計画においては、前計画に掲げたWIN-WINネット業務（新販路開拓コンサルティング）をはじめとした各施策をさらに加速させることで、「お客様との接点の拡大そして深化」へ向けたビジネスモデルの構築を目指しております。

(2) 企業集団及び当行の財産及び損益の状況

① 企業集団の財産及び損益の状況

(単位：億円)

	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
経常収益	184	204	192	202
経常利益	22	29	35	41
親会社株主に帰属する当期純利益	17	26	25	22
包括利益	50	14	49	4
純資産額	382	380	424	422
総資産	7,124	7,298	7,569	7,727

注 記載金額は、単位未満を切り捨てて表示しております。

② 当行の財産及び損益の状況

(単位：億円)

	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
預金	6,600	6,754	7,009	7,162
定期性預金	4,399	4,474	4,617	4,667
その他	2,200	2,279	2,391	2,495
貸出金	5,269	5,425	5,601	5,739
個人向け	1,928	1,969	2,015	2,053
中小企業向け	2,933	3,067	3,216	3,317
その他	407	387	368	368
商品有価証券	0	0	1	1
有価証券	936	988	1,055	1,059
国債	468	527	523	532
その他	467	460	532	526
社債	20	20	20	20
総資産	7,122	7,287	7,553	7,706
内国為替取扱高	21,571	22,480	22,763	23,211
外国為替取扱高	百万ドル 572	百万ドル 118	百万ドル 40	百万ドル 21
経常利益	百万円 2,229	百万円 2,962	百万円 3,534	百万円 4,103
当期純利益	百万円 1,726	百万円 2,594	百万円 2,576	百万円 2,182
1株当たり当期純利益	円 銭 18 61	円 銭 29 58	円 銭 29 43	円 銭 24 62

注 1. 記載金額は、単位未満を切り捨てて表示しております。

2. 1株当たり当期純利益は、当期純利益から当期優先株式配当金総額を控除した金額を自己株式数を控除した期中の平均発行済普通株式数で除し、単位未満を四捨五入して算出しております。

(3) 企業集団及び当行の使用人の状況

① 企業集団の使用人の状況

事業者名	当年度末	前年度末
株式会社南日本銀行	654人	651人
南九州サービス株式会社	0人	0人
なんぎんリース株式会社	1人	1人
合計	655人	652人

- 注 1. 使用人数には、臨時雇員及び嘱託は含まれておりません。
2. 南九州サービス(株)、なんぎんリース(株)の使用人には、(株)南日本銀行からの出向者は含まれておりません。

② 当行の使用人の状況

	当年度末	前年度末
使用人数	654人	651人
平均年齢	39年 4月	39年11月
平均勤続年数	16年 5月	16年11月
平均給与月額	362千円	363千円

- 注 1. 使用人数には、臨時雇員及び嘱託は含まれておりません。
2. 平均年齢、平均勤続年数及び平均給与月額は、それぞれ単位未満を切り捨てて表示しております。
3. 平均給与月額は、賞与を除く3月中の平均給与月額であります。

(4) 営業所等の状況

① 営業所数の推移

	当 年 度 末		前 年 度 末	
	うち出張所		うち出張所	
鹿 児 島 県	55店	(3)	55店	(3)
宮 崎 県	2	(一)	2	(一)
熊 本 県	4	(一)	4	(一)
福 岡 県	2	(一)	2	(一)
東 京 都	1	(一)	1	(一)
合 計	64	(3)	64	(3)

注 上記のほか、当年度末において、店舗外現金自動預払機を100カ所（前年度末102カ所）設置しております。

② 当年度新設営業所

当年度における営業所の新設はありません。

注 当年度において、共同出張所の形式にてニシムタスカイマーケット鴨池店（当行幹事、鹿児島信用金庫、鹿児島相互信用金庫が参加）、鹿児島市立病院（鹿児島相互信用金庫幹事、当行、鹿児島信用金庫が参加）の2カ所に店舗外現金自動預払機を新設いたしました。

なお、新上橋出張所、ローソン鹿児島喜入中名店出張所、ローソン鹿児島西田三丁目店出張所、ローソン鹿児島武二丁目店出張所の計4カ所の店舗外現金自動預払機については廃止いたしました。

(5) 企業集団の設備投資の状況

① 設備投資の総額

(単位：百万円)

設備投資の総額	906
---------	-----

② 重要な設備の新設等

(単位：百万円)

内 容	金 額
笠之原支店新店舗関係	195
ソフトウェアの導入・更改	181
紫原支店新店舗関係	160

(6) 重要な子会社等の状況

① 重要な子会社等の状況

会社名	所在地	主要業務内容	設立年月日	資本金	当行が有する子会社等の議決権比率
なんぎんリース株式会社	鹿児島市中央町26番18号	リース業務	昭和60年7月4日	百万円 70	% 68 (6)
南九州サービス株式会社	鹿児島市泉町2番3号4F	現金等輸送業務	昭和59年3月1日	10	50

- 注 1. 資本金は、単位未満を切り捨てて表示しております。
2. 当行議決権比率は、直接所有と間接所有等の合計比率で記載し、() 内は間接所有等の比率であります。
3. 当期の連結経常収益は202億4百万円、親会社株主に帰属する当期純利益は22億17百万円であります。

② 重要な業務提携の概況

- イ. 第二地銀協地銀41行の提携により、現金自動設備の相互利用による現金自動引出しのサービス（略称SCS）を行っております。
- ロ. 第二地銀協地銀41行、都市銀行5行、信託銀行3行、地方銀行64行、信用金庫266金庫（信金中央金庫を含む）、信用組合134組合（全信組連を含む）、系統農協・信漁連733（農林中金、信連を含む）、労働金庫14金庫（労金連を含む）との提携により、現金自動設備の相互利用による現金自動引出しのサービス（略称MICS）を行っております。
- ハ. 第二地銀協地銀41行の提携により、ISDN回線交換網を利用したデータ伝送の方法による取引先企業との間の総合振込等のデータの授受のサービス及び入出金取引明細等のマルチバンクレポートサービス（略称SDS）を行っております。
- ニ. ゆうちょ銀行との提携により、CAFIS接続方式で現金自動設備の相互利用による現金自動引出し・入金の実施サービスを行っております。
- ホ. 九州地区第二地銀6行で勘定系及び対外系システム等オンラインシステムを共同利用しております。

- へ. 宮崎太陽銀行、豊和銀行と3行のお取引先に対する経営支援を通じて地域経済の活性化に貢献するため、「3行合同地域再生支援委員会」を設立するとともに、各行において、あおぞら銀行グループと「九州地域活性化ファンド（あおぞら銀行グループ設立）」を活用したお取引先の事業再生支援に関する業務提携を行っております。
- ト. 取引先企業の再生支援強化のために鹿児島県内に本店を置く、当行を含む7金融機関（当行、鹿児島銀行、鹿児島信用金庫、鹿児島相互信用金庫、奄美大島信用金庫、鹿児島興業信用組合、奄美大島信用組合）と鹿児島県信用保証協会及び鹿児島県中小企業再生支援協議会が参加して株式会社ドーガン・インベストメンツと「かごしま企業再生ファンド」を活用した「業務協力協定」を締結しております。
- チ. セブン銀行とのATM利用提携について、平成26年4月14日より利用提携を開始しております。CAFIS接続方式で当行キャッシュカードのセブン銀行ATM利用による現金自動引出し・入金のサービスを行っております。

2. 会社役員（取締役、監査役）に関する事項

(1) 会社役員 の 状況（平成27年度末現在）

氏 名	地位及び担当	重要な兼職	そ の 他
森 俊 英	代 表 取 締 役 頭 取	事業組合システム バンキング九州共 同センター理事長	
齋 藤 眞 一	代 表 取 締 役 専 務		
是 枝 良 実	常 務 取 締 役 人事総務部長兼人材開発室長		
松 下 弘 志	常 務 取 締 役 審 査 部 長		
春 山 慶 次 郎	取 締 役 営業統括部長兼支店支援室長		
市 坪 功 治	取 締 役 経営企画部長兼経営計画推進室長		
正 野 和 広	取 締 役 本 店 営 業 部 長		
高 田 守 國	取 締 役（社 外）		鹿児島県出納長、副知事 を歴任するなど財務・会計 に関して相当程度の知見を 有するものであります。
野 間 俊 美	取 締 役（社 外）	野間法律事務所 代表弁護士	
福 元 浩 一 郎	監 査 役（常 勤）		
永 山 在 紀	監 査 役（社 外）	南国殖産株式会社 代表取締役社長	南国殖産株式会社の代表 取締役社長であり、同社の 経理部門を所管する役員を 歴任するなど、財務・会計 に関して相当程度の知見を 有するものであります。
山 原 芳 樹	監 査 役（社 外）	鹿 児 島 大 学 名 誉 教 授	
西 山 芳 久	監 査 役（社 外）		

注 当行は、高田守國氏を福岡証券取引所の定めに基づく独立役員として指定し、同取引所に届け出ております。

(2) 会社役員に対する報酬等

(単位：百万円)

区 分	支給人数	報酬等
取締役	9人	105
監査役	4人	26
計	13人	131

- 注 1. 記載金額は、単位未満を切り捨てて表示しております。
 2. 取締役の報酬等には、取締役が使用人を兼ねる場合の使用人としての報酬55百万円は含まれておりません。
 3. 株主総会で定められた役員に対する報酬限度額は、取締役について年額200百万円以内、監査役については年額45百万円以内であります。
 4. 役員賞与は支給しておりません。
 5. 平成23年6月に役員退職慰労金制度を廃止しており、平成23年7月以降の役員退職慰労引当金の繰入は行っておりません。

(3) 責任限定契約

当行と各社外取締役及び各社外監査役は、会社法第427条第1項の規定に基づき、同法第423条第1項の損害賠償責任を限定する契約を締結しております。

当該契約に基づく損害賠償責任の限度額は、社外取締役及び社外監査役ともに同法第425条第1項に定める最低責任限度額としております。

3. 社外役員に関する事項

(1) 社外役員の兼職その他の状況

氏名	兼職その他の状況
野間俊美	野間法律事務所は、当行と通常の銀行取引があります。
永山在紀	南国殖産株式会社は、当行と通常の銀行取引があります。
山原芳樹	鹿児島大学は、当行と通常の銀行取引があります。

(2) 社外役員の主な活動状況

氏名	在任期間	取締役会等への出席状況	取締役会等における発言その他の活動状況
高田守國	12年9カ月	当事業年度開催の定例取締役会15回全てに出席	必要に応じ、行政の豊富な経験を生かし、高い見識から発言を行っております。
野間俊美	9カ月	平成27年6月26日就任以降当事業年度開催の定例取締役会12回全てに出席	必要に応じ、弁護士としての高い見識と幅広い経験から発言を行っております。
永山在紀	9年9カ月	当事業年度開催の定例取締役会15回のうち8回出席 当事業年度開催の監査役会13回のうち8回出席	必要に応じ、主に経営者としての豊富な経験と高い見識から発言を行っております。
山原芳樹	5年9カ月	当事業年度開催の定例取締役会15回全てに出席 当事業年度開催の監査役会13回全てに出席	必要に応じ、学識者としての高い見識と幅広い経験から発言を行っております。
西山芳久	9カ月	平成27年6月26日就任以降当事業年度開催の定例取締役会12回全てに出席 当事業年度開催の監査役会10回全てに出席	必要に応じ、行政の豊富な経験を生かし、高い見識から発言を行っております。

(3) 社外役員に対する報酬等

(単位：百万円)

	支給人数	銀行から受けている報酬等	銀行の親会社等からの報酬等
報酬等の合計	5人	16	—

注 記載金額は、単位未満を切り捨てて表示しております。

4. 当行の株式に関する事項

(1) 株式数

発行可能株式総数	
普通株式	320,000千株
A種優先株式	320,000千株
発行済株式の総数	
普通株式	80,964千株
A種優先株式	30,000千株

- 注 1. 株式数は、千株未満を切り捨てて表示しております。
 2. 普通株式の株式数には自己株式(448,149株)を含んでおります。

(2) 当年度末株主数

普通株式	5,759名
A種優先株式	1名

(3) 大株主

① 普通株式

株主の氏名又は名称	当行への出資状況	
	持株数 千株	持株比率 %
南日本銀行行員持株会	4,451	5.52
株式会社みずほ銀行	3,341	4.15
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口4)	3,088	3.83
株式会社福岡銀行	2,808	3.48
一般財団法人岩崎育英文化財団	2,384	2.96
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	2,278	2.82
明治安田生命保険相互会社	2,276	2.82
西日本信用保証株式会社	2,172	2.69
みずほ信託銀行株式会社	2,157	2.67
共栄火災海上保険株式会社	2,011	2.49

② A種優先株式

株主の氏名又は名称	当行への出資状況	
	持株数 千株	持株比率 %
株式会社整理回収機構	30,000	100.00

- 注 1. 持株数は、千株未満を切り捨てて表示しております。
 2. 持株比率は、小数点第3位以下を切り捨てて表示しております。
 3. 普通株式の持株比率は、自己株式(448,149株)を控除して計算しております。

5. 会計監査人に関する事項

(1) 会計監査人の状況

(単位：百万円)

氏名又は名称	当該事業年度に係る報酬等	その他
新日本有限責任監査法人 指定有限責任社員 工藤雅春 指定有限責任社員 山内正彦 指定有限責任社員 永里 剛	40	(注) 5 (注) 6 (注) 7

- 注 1. 記載金額は、単位未満を切り捨てて表示しております。
2. 当行と会計監査人との間の監査契約において、会社法上の監査と金融商品取引法上の監査の監査報酬の額を区分しておらず、実質的にも区分できないため、これらの合計額で記載しております。
3. 当行、子会社及び子法人等が会計監査人に支払うべき金銭その他の財産上の利益の合計額は、40百万円であります。
4. 当行と会計監査人との間で、会社法第427条第1項に定める責任限定契約は締結しておりません。
5. 非監査業務
バーゼルⅢ規則・自己資本比率算出に係る助言・指導業務に関する報酬が2百万円及びマイナンバー導入支援に関する報酬が3百万円あります。
6. 監査役会の同意理由
当行監査役会は、会計監査人からの報告の聴取等を通じて、会計監査人の監査計画の内容、従前の事業年度における職務執行状況や報酬見積りの算定根拠などを検討し、会計監査人の報酬等の額について同意を行っております。
7. 会計監査人が受けた過去2年間の業務停止処分
- (1) 処分の対象者
新日本有限責任監査法人（所在地：東京都千代田区）
- (2) 処分の内容
・契約の新規の締結に関する業務の停止 3月
（平成28年1月1日から同年3月31日まで）
・業務改善命令（業務管理体制の改善）
※併せて、同日、約21億円の課徴金納付命令に係る審判手続開始を決定
- (3) 処分理由
①新日本有限責任監査法人（以下「当監査法人」という。）は、株式会社東芝の平成22年3月期、平成24年3月期及び平成25年3月期における財務書類の監査において、7名の公認会計士が相当の注意を怠り、重大な虚偽のある財務書類を重大な虚偽のないものとして証明した。
②当監査法人の運営が著しく不当と認められた。

(2) 会計監査人に関するその他の事項

会計監査人の解任又は不再任の決定の方針

監査役会は、会計監査人の職務の執行に支障がある場合等、その他必要があると判断した場合は、会計監査人の解任又は不再任を株主総会の会議の目的とすることといたします。

また、監査役会は、会計監査人が会社法第340条第1項各号に定める項目に該当すると認められる場合は、監査役全員の同意に基づき、会計監査人を解任することといたします。この場合、監査役会が選定した監査役は、解任後最初に招集される株主総会において、会計監査人を解任した旨と解任の理由を報告いたします。

6. 業務の適正を確保するための体制

当行における「内部統制システム構築の基本方針」は、以下の通りです。

「内部統制システム構築の基本方針」

当行は、会社法及び会社法施行規則等に基づき、以下のとおり、当行の業務の適正を確保するための体制（以下、「内部統制」という。）を整備する。

1. 取締役・使用人の職務執行が法令及び定款に適合することを確保するための体制
 - (1) 法令等の遵守をあらゆる企業活動の前提とし、代表取締役が繰り返し取締役及び使用人に伝えることにより徹底する。
 - (2) コンプライアンス基準等を、取締役及び使用人が法令・定款及び社会規範を遵守した行動をとるための行動規範とする。
 - (3) コンプライアンス委員会において、コンプライアンスに関する事項を審議・決定する。
 - (4) 事業年度ごとに取締役会において「コンプライアンス・プログラム」を策定し、実施状況をフォロー点検することによりコンプライアンスを徹底する。
 - (5) 経営企画部を主担当部とし、本部各部及び営業店にコンプライアンス担当者を配置して、コンプライアンスに関する情報を一元的に管理する。
 - (6) 取締役及び使用人を対象としたコンプライアンス研修、全店統一勉強会等を実施する。
 - (7) 事故防止のため職員の人事ローテーションや連続休暇制度を実施する。
 - (8) コンプライアンス基準に基づき、取締役及び使用人が法令上疑義のある行為等を直接情報提供することについて、取締役及び使用人の全てに周知する。
 - (9) 財務報告の適切性を確保するために、経営企画部リスク統括グループを主担当部署として、必要な内部統制体制を構築する。
 - (10) 社会秩序や健全な企業活動を脅かす反社会的勢力及び団体とは、銀行単体のみならず他社との提携による金融サービスの提供などの取引を含めた一切の関係を遮断し、別途定める『反社会的勢力に対する基本方針』に基づき、反社会的勢力からの不当な要求に対しては断固たる態度で対応する。
2. 取締役の職務の執行に係る情報の保存及び管理に関する体制
 - (1) 取締役の職務執行に係る情報については、文書管理規程に基づき文書または電磁的媒体（以下、「文書等」という。）に記録し保存する。
 - (2) 取締役及び監査役は、文書管理規程により、常時これらの文書等を閲覧できるものとする。
3. 損失の危険の管理に関する規程その他の体制
 - (1) 各種リスクの管理体制、リスク管理方針・計画、リスクの測定・評価・管理、報告、検査及び問題点の是正等を定めたリスク管理基準に基づき、リスク管理体制を強固なものにする。

- (2) 各種リスクの管理担当部は、リスク管理の状況をリスクカテゴリーに応じてALM委員会、もしくはリスク管理委員会へ報告し、これらの委員会において管理及び対策等を協議・決定する。リスク管理の運営・統括は経営企画部が行う。
 - (3) 内部監査部門は、内部監査計画に基づいて各部署のリスク管理の状況を監査し、その結果を定期的に取り締役会へ報告する。
4. 取締役の職務の執行が効率的に行われることを確保するための体制
- (1) 事務分掌・取締役会規程等に基づき、取締役の職務執行の効率化を図る。
 - (2) コンプライアンスに関する諸問題については、コンプライアンス委員会において審議したうえで、取締役会に付議する。
5. 当行及び子会社等から成る企業集団における業務の適正を確保するための体制
- (1) 連結子会社等管理規程に基づき、子会社等の重要な業務の決定について当行が適切に管理及び指導を行うことにより、職務の執行が効率的に行われることを確保するとともに、業務の状況についても定期的の子会社等から報告を求める。
 - (2) 子会社等のコンプライアンス体制、リスク管理体制及び情報管理体制については、経営企画部が指導・監督し、当行及び子会社等から成る企業集団として業務の適正を確保する。
 - (3) 内部監査部門は、子会社等の重要な業務運営の監査を実施し、その結果を取締役会へ報告する。
6. 監査役がその職務を補助すべき使用人を置くことを求めた場合における当該使用人に関する事項ならびにその使用人の取締役からの独立性に関する事項
- (1) 監査役を補助すべき使用人については、監査役会と協議のうえ必要な人員を監査役室に配置する。
 - (2) 監査役室に所属する使用人は、他部署の役職員を兼務せず、監査役以外の者からの指揮命令を受けない。
 - (3) 監査役室に所属する使用人の人事異動及び考課等人事権に係る事項については、あらかじめ監査役会の意見を聴取し、これを尊重する。
7. 当行及び子会社等の役職員等が監査役に報告するための体制
- (1) 取締役は、当行及び子会社等の役職員の職務の執行に係る重大な法令・定款違反、不正行為の事実又は当行に著しい損害を及ぼすおそれのある事実を発見したときは、これを監査役に報告する。
 - (2) 職務の執行に関し重大な法令・定款違反、不正行為の事実又は当行に著しい損害を及ぼすおそれのある事実を発見した当行及び子会社等の役職員若しくはこれらの者から報告を受けた者は、これを監査役に報告する。
 - (3) 当該報告をした者に対し、当該報告を理由として不利な取扱いを行ってはならない。

8.その他監査役の監査が実効的に行われることを確保するための体制

- (1) 監査役がその職務の執行について生ずる費用の前払い等の請求をしたときは、当該請求に係る費用又は債務が当該監査役の職務の執行に必要なでない認められた場合を除き、速やかに当該費用又は債務を処理する。
- (2) 監査役は、取締役会、経営会議及びその他の重要な会議又は委員会等に出席することができるほか、主要な稟議書その他の業務執行に関する重要な書類を閲覧し、取締役又は職員に対しその説明を求めることができる。
- (3) 代表取締役は、定期的に監査役と意見交換を行い、監査役の監査が実効的に行われるよう努めるものとする。

(業務の適正を確保するための体制の運用状況)

当行は、取締役会において決議された「内部統制システム構築の基本方針」に基づき業務の適正を確保するための体制を整備し運用しております。当事業年度においては、平成27年5月に施行された改正会社法及び改正会社法施行規則に対応するため、平成28年3月22日開催の取締役会において当該方針の改訂を決議しました。

1.コンプライアンス

社内規程を整備し周知する他、各種会議や各種社内研修を通じ、役職員等に対してコンプライアンスに関する教育を実施し、法令及び定款を遵守するための取り組みを継続的に行っております。また、コンプライアンス違反等に関する通報及び相談の適正な処理の仕組みとして内部通報制度「良心ホットライン」を設け、使用人に対する周知を継続的に行っております。

2.リスクマネジメント

当行では、業務上不可避なリスクについて、想定される最大損失が経営基盤を脅かすことのないようコントロールすることを目的としてリスク管理に関するさまざまな規程を整備し、「ALM委員会」及び「リスク管理委員会」を中心とするリスク管理体制を確立しております。

また、災害等を想定した訓練も適宜行っております。

3.財務報告に係る内部統制

当行は、財務報告の適切性を確保するための適切な管理態勢を構築・整備することを目的とした「財務報告にかかる内部統制規程」に基づいて、内部統制評価を実施しております。

4.内部監査

当行の内部監査部門は、当行及び子会社等における内部管理態勢の適切性・有効性を検証するとともに、問題点の発見・指摘にとどまらず、評価及び問題点の提言まで行うこととし、内部監査計画に基づき実施された内部監査結果については、原則として四半期毎に開催される監査報告会を通じて取締役会に報告しております。

7. 特定完全子会社に関する事項

- ・該当事項はありません。

8. 親会社等との間の取引に関する事項

- ・該当事項はありません。

[連結計算書類]

第108期末 (平成28年3月31日現在) 連結貸借対照表

(単位：百万円)

科 目	金 額	科 目	金 額
(資産の部)		(負債の部)	
現金預け金	80,916	預 金	716,082
商品有価証券	137	借 用 金	0
金銭の信託	458	社 債	2,000
有価証券	105,912	そ の 他 負 債	3,944
貸 出 金	572,720	退職給付に係る負債	2,072
外 国 為 替	516	睡眠預金払戻損失引当金	334
リース債権及びリース投資資産	1,686	偶 発 損 失 引 当 金	519
そ の 他 資 産	2,793	再評価に係る繰延税金負債	1,353
有 形 固 定 資 産	12,621	支 払 承 諾	4,181
建 物	2,557	負債の部合計	730,488
土 地	8,906	(純資産の部)	
リ ー ス 資 産	3	資 本 金	16,601
建設仮勘定	3	資 本 剰 余 金	8,873
その他の有形固定資産	1,151	利 益 剰 余 金	11,023
無 形 固 定 資 産	507	自 己 株 式	△146
ソ フ ト ウ ェ ア	409	株 主 資 本 合 計	36,351
その他の無形固定資産	97	その他有価証券評価差額金	4,044
繰 延 税 金 資 産	2,036	土 地 再 評 価 差 額 金	2,812
支 払 承 諾 見 返	4,181	退職給付に係る調整累計額	△970
貸 倒 引 当 金	△11,747	その他の包括利益累計額合計	5,886
投資損失引当金	△16	純資産の部合計	42,237
資産の部合計	772,726	負債及び純資産の部合計	772,726

第108期 (平成27年4月1日から 平成28年3月31日まで) 連結損益計算書

(単位：百万円)

科 目	金	額
経常収益	15,893	20,204
貸付金	13,353	
有価証券	1,376	
コールローン	0	
預金の利息	65	
その他の引当金	1,097	
役員報酬	2,300	
その他の引当金	529	
償却の他の債権	1,481	
その他の経常収益	4	
経常収益	1,476	
経常費用	672	16,046
貸付金	580	
有価証券	0	
コールローン	0	
預金の利息	67	
その他の引当金	23	
役員報酬	1,975	
その他の引当金	152	
償却の他の債権	10,937	
その他の経常費用	2,308	
貸付金の倒銭の引当金	1,429	
その他の経常費用	31	
経常費用	847	
経常利益	4,157	4,157
特別固定資産	19	19
特別固定資産	14	93
減損	78	
減損		4,084
減損	580	
減損	1,286	
減損	1,866	
減損	2,217	
減損	-	
減損	2,217	

第108期 (平成27年4月1日から平成28年3月31日まで) 連結株主資本等変動計算書

(単位：百万円)

	株 主 資 本				
	資 本 金	資本剰余金	利益剰余金	自 己 株 式	株主資本合計
当期首残高	16,601	8,873	9,280	△143	34,612
当期変動額					
剰余金の配当			△608		△608
親会社株主に帰属する当期純利益			2,217		2,217
自己株式の取得				△3	△3
自己株式の処分		△0		0	0
土地再評価差額金の取崩			133		133
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)					
当期変動額合計	-	△0	1,742	△2	1,739
当期末残高	16,601	8,873	11,023	△146	36,351

(単位：百万円)

	その他の包括利益累計額				純資産合計
	その他有価証券評価差額金	土地再評価差額金	退職給付に係る調整累計額	その他の包括利益累計額合計	
当期首残高	5,626	2,878	△704	7,801	42,413
当期変動額					
剰余金の配当					△608
親会社株主に帰属する当期純利益					2,217
自己株式の取得					△3
自己株式の処分					0
土地再評価差額金の取崩					133
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)	△1,582	△66	△265	△1,915	△1,915
当期変動額合計	△1,582	△66	△265	△1,915	△175
当期末残高	4,044	2,812	△970	5,886	42,237

[計算書類]

第108期末 (平成28年3月31日現在) 貸借対照表

(単位：百万円)

科目	金額	科目	金額
(資産の部)		(負債の部)	
現金預け	80,916	預金	716,270
現金	11,567	当座預金	12,356
預け	69,349	普通預金	228,843
商品有価証券	137	貯蓄預金	2,397
商品	137	通知預金	1,604
金の信託	458	定期預金	457,700
有価証券	105,922	その他預金	8,886
国債	53,242	借入金	4,480
地方債	9,519	借入金	0
社債	16,651	借入金	0
株	8,017	その他負債	2,282
その他証券	18,492	未決済為替	139
貸出金	573,927	未払法人費	483
割引手形	3,138	未払費用	665
手形	27,276	未払引当金	430
証券	498,142	前払引当金	104
当座	45,369	従業員預り	2
外国為替	516	従業員預り	16
外国店預け	508	一入債	13
取立外為替	7	その他除去的負債	427
その他資産	1,405	退職給付引当金	673
未決済為替	106	睡眠預金引当金	334
未収収益	512	偶発損失引当金	519
金融派生の商品	5	再評価に係る繰延税金負債	1,353
その他の資産	780	支払承継	4,181
有形固定資産	12,557	負債の部合計	727,615
建物	2,557	(純資産の部)	
土地	8,906	資本剰余金	16,601
リース資産	16	資本準備金	8,903
建設仮勘定	3	その他資本剰余金	7,500
その他の有形固定資産	1,074	利益剰余金	1,403
無形固定資産	496	利益剰余金	10,817
ソフトウェア	399	利益剰余金	704
その他の無形固定資産	97	繰越利益剰余金	10,112
繰延税金資産	1,614	自己株	10,112
支払承諾見返	4,181	株主資本合計	△146
貸倒引当金	△11,471	株主資本合計	36,175
投資損失引当金	△16	その他有価証券評価差額金	4,043
資産の部合計	770,647	土地再評価差額金	2,812
		評価・換算差額等合計	6,856
		純資産の部合計	43,031
		負債及び純資産の部合計	770,647

第108期 (平成27年4月1日から平成28年3月31日まで) 損益計算書

(単位：百万円)

科 目	金	額
経 常 収 益	14,829	19,092
資 金 運 用 収 益	13,385	
貸 有 価 一 預 金 の 受 入 利 益	1,375	
二 次 預 金 の 受 入 利 益	0	
そ の 他 の 受 入 利 益	65	
役 務 受 入 の 他 の 業 務 収 益	2,291	
そ の 他 の 業 務 収 益	509	
外 国 品 債 の 却 式 の 他 の 経 費 達 利 一 用 債 の 他 の 支 払 利 費 等	1,781	
そ の 他 の 業 務 収 益	529	
外 国 品 債 の 却 式 の 他 の 経 費 達 利 一 用 債 の 他 の 支 払 利 費 等	14	
そ の 他 の 業 務 収 益	0	
外 国 品 債 の 却 式 の 他 の 経 費 達 利 一 用 債 の 他 の 支 払 利 費 等	514	
そ の 他 の 業 務 収 益	1,442	
外 国 品 債 の 却 式 の 他 の 経 費 達 利 一 用 債 の 他 の 支 払 利 費 等	4	
そ の 他 の 業 務 収 益	1,106	
外 国 品 債 の 却 式 の 他 の 経 費 達 利 一 用 債 の 他 の 支 払 利 費 等	332	
そ の 他 の 業 務 収 益	14,988	
経 常 収 益	649	
預 金 一 次 預 金 の 利 息	580	
二 次 預 金 の 利 息	0	
そ の 他 の 支 払 利 息	0	
役 務 支 払 の 他 の 支 払 利 息	67	
そ の 他 の 支 払 利 息	0	
外 国 債 の 却 式 の 他 の 経 費 達 利 一 用 債 の 他 の 支 払 利 費 等	1,975	
そ の 他 の 支 払 利 費	144	
外 国 債 の 却 式 の 他 の 支 払 利 費	1,830	
そ の 他 の 支 払 利 費	152	
外 国 債 の 却 式 の 他 の 支 払 利 費	83	
そ の 他 の 支 払 利 費	69	
外 国 債 の 却 式 の 他 の 支 払 利 費	9,914	
そ の 他 の 支 払 利 費	2,296	
外 国 債 の 却 式 の 他 の 支 払 利 費	1,425	
そ の 他 の 支 払 利 費	443	
外 国 債 の 却 式 の 他 の 支 払 利 費	40	
そ の 他 の 支 払 利 費	31	
外 国 債 の 却 式 の 他 の 支 払 利 費	354	
そ の 他 の 支 払 利 費	4,103	
経 常 収 益	4,103	

(単位：百万円)

科		目		金	額
特	別	利	益		19
固	定	産	処	19	
特	別	産	損		93
固	定	産	処	14	
減	損	損	分	78	
税	引	当	期		4,029
法	人	住	民	560	
法	人	税	等	1,286	
法	人	税	等		1,847
当	期	純	利		2,182
		純	及		
		調	整		
		合	業		
		利	業		
			稅		
			額		
			計		
			益		

第108期（平成27年4月1日から）株主資本等変動計算書

(単位：百万円)

	株 主 資 本			
	資 本 金	資 本 剰 余 金		
		資本準備金	その他資本剰余金	資本剰余金合計
当期首残高	16,601	7,500	1,403	8,903
当期変動額				
剰余金の配当				
当期純利益				
利益準備金の積立				
自己株式の取得				
自己株式の処分			△0	△0
土地再評価差額金の取崩				
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)				
当期変動額合計	-	-	△0	△0
当期末残高	16,601	7,500	1,403	8,903

(単位：百万円)

	株 主 資 本				
	利 益 剰 余 金			自 己 株 式	株主資本合計
	利益準備金	その他利益剰余金	利益剰余金合計		
繰越利益剰余金					
当期首残高	583	8,526	9,109	△143	34,471
当期変動額					
剰余金の配当		△608	△608		△608
当期純利益		2,182	2,182		2,182
利益準備金の積立	121	△121			
自己株式の取得				△3	△3
自己株式の処分				0	0
土地再評価差額金の取崩		133	133		133
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)					
当期変動額合計	121	1,586	1,707	△2	1,704
当期末残高	704	10,112	10,817	△146	36,175

(単位：百万円)

	評価・換算差額等			純資産合計
	その他有価証券 評価差額金	土地再評価差額金	評価・換算 差額等合計	
当期首残高	5,626	2,878	8,505	42,976
当期変動額				
剰余金の配当				△608
当期純利益				2,182
利益準備金の積立				
自己株式の取得				△3
自己株式の処分				0
土地再評価差額金 の取崩				133
株主資本以外の項目 の当期変動額(純額)	△1,582	△66	△1,649	△1,649
当期変動額合計	△1,582	△66	△1,649	55
当期末残高	4,043	2,812	6,856	43,031

連結計算書類に係る会計監査報告

独立監査人の監査報告書

平成28年5月11日

株式会社 南 日 本 銀 行
取締役会 御 中

新日本有限責任監査法人

指定有限責任社員 業務執行社員	公認会計士	工 藤 雅 春	Ⓔ
指定有限責任社員 業務執行社員	公認会計士	山 内 正 彦	Ⓔ
指定有限責任社員 業務執行社員	公認会計士	永 里 剛	Ⓔ

当監査法人は、会社法第444条第4項の規定に基づき、株式会社南日本銀行の平成27年4月1日から平成28年3月31日までの連結会計年度の連結計算書類、すなわち、連結貸借対照表、連結損益計算書、連結株主資本等変動計算書及び連結注記表について監査を行った。

連結計算書類に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して連結計算書類を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない連結計算書類を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した監査に基づいて、独立の立場から連結計算書類に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に連結計算書類に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、連結計算書類の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による連結計算書類の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、連結計算書類の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての連結計算書類の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

監査意見

当監査法人は、上記の連結計算書類が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、株式会社南日本銀行及び連結子会社からなる企業集団の当該連結計算書類に係る期間の財産及び損益の状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

計算書類に係る会計監査報告

独立監査人の監査報告書

平成28年5月11日

株式会社 南 日 本 銀 行
取締役会 御 中

新日本有限責任監査法人

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 工 藤 雅 春 ㊞
指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 山 内 正 彦 ㊞
指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 永 里 剛 ㊞

当監査法人は、会社法第436条第2項第1号の規定に基づき、株式会社南日本銀行の平成27年4月1日から平成28年3月31日までの第108期事業年度の計算書類、すなわち、貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書及び個別注記表並びにその附属明細書について監査を行った。

計算書類等に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して計算書類及びその附属明細書を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない計算書類及びその附属明細書を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した監査に基づいて、独立の立場から計算書類及びその附属明細書に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に計算書類及びその附属明細書に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、計算書類及びその附属明細書の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による計算書類及びその附属明細書の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、計算書類及びその附属明細書の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての計算書類及びその附属明細書の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

監査意見

当監査法人は、上記の計算書類及びその附属明細書が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、当該計算書類及びその附属明細書に係る期間の財産及び損益の状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

監査役会の監査報告

監 査 報 告 書

当監査役会は、平成27年4月1日から平成28年3月31日までの第108期事業年度の取締役の職務の執行に関して、各監査役が作成した監査報告書に基づき、審議の結果、監査役全員の一致した意見として本監査報告書を作成し、以下のとおり報告いたします。

1. 監査役及び監査役会の監査の方法及びその内容

- (1) 監査役会は、監査の方針、職務の分担等を定め、各監査役から監査の実施状況及び結果について報告を受けるほか、取締役等及び会計監査人からその職務の執行状況について報告を受け、必要に応じて説明を求めました。
- (2) 各監査役は、監査役会が定めた監査役監査の基準に準拠し、監査の方針、職務の分担等に従い、取締役、内部監査部門その他の使用人等と意思疎通を図り、情報の収集及び監査の環境の整備に努めるとともに、以下の方法で監査を実施いたしました。
 - ① 取締役会その他重要な会議に出席し、取締役及び使用人等からその職務の執行状況について報告を受け、必要に応じて説明を求め、重要な決裁書類等を閲覧し、本部及び営業店において業務及び財産の状況を調査いたしました。また、子会社については、子会社の取締役及び監査役等と意思疎通及び情報の交換を図り、必要に応じて子会社から事業の報告を受けました。
 - ② 事業報告に記載されている取締役の職務の執行が法令及び定款に適合することを確保するための体制その他株式会社及びその子会社から成る企業集団の業務の適正を確保するために必要なものとして会社法施行規則第100条第1項及び第3項に定める体制の整備に関する取締役会決議の内容及び当該決議に基づき整備されている体制（内部統制システム）について、取締役及び使用人等からその構築及び運用の状況について定期的に報告を受け、必要に応じて説明を求め、意見を表明いたしました。
 - ③ 会計監査人が独立の立場を保持し、かつ、適正な監査を実施しているかを監視及び検証するとともに、会計監査人からその職務の執行状況について報告を受け、必要に応じて説明を求めました。また、会計監査人から「職務の遂行が適正に行われることを確保するための体制」（会社計算規則第131条各号に掲げる事項）を「監査に関する品質管理基準」（平成17年10月28日企業会計審議会）等に従って整備している旨の通知を受け、必要に応じて説明を求めました。

以上の方法に基づき、当該事業年度に係る事業報告及びその附属明細書、計算書類（貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書及び個別注記表）及びその附属明細書並びに連結計算書類（連結貸借対照表、連結損益計算書、連結株主資本等変動計算書及び連結注記表）について検討いたしました。

2. 監査の結果

(1) 事業報告等の監査結果

- 一 事業報告及びその附属明細書は、法令及び定款に従い、会社の状況を正しく示しているものと認めます。
- 二 取締役の職務の執行に関する不正の行為又は法令若しくは定款に違反する重大な事実は認められません。
- 三 内部統制システムに関する取締役会決議の内容は相当であると認めます。また、当該内部統制システムに関する事業報告の記載内容及び取締役の職務の執行についても、指摘すべき事項は認められません。

(2) 計算書類及びその附属明細書の監査結果

会計監査人新日本有限責任監査法人の監査の方法及び結果は相当であると認めます。

(3) 連結計算書類の監査結果

会計監査人新日本有限責任監査法人の監査の方法及び結果は相当であると認めます。

平成28年5月16日

株式会社 南日本銀行 監査役会

常勤監査役 福元 浩一郎 ㊟

社外監査役 永山 在紀 ㊟

社外監査役 山原 芳樹 ㊟

社外監査役 西山 芳久 ㊟

以上

株主総会参考書類

〈会社提案（第1号議案及び第2号議案）〉

第1号議案 剰余金処分の件

剰余金の処分につきましては、以下のとおりといたしたいと存じます。

1. 期末配当に関する事項

期末配当につきましては、当事業年度の業績、今後の事業展開並びに内部留保の状況等を総合的に勘案し、以下のとおりといたしたいと存じます。

(1) 配当財産の種類

金銭といたします。

(2) 配当財産の割当てに関する事項及びその総額

当行普通株式1株につき金5円、A種優先株式1株につき、定款の定めにより金6円67銭を配当いたしたいと存じます。

なお、この場合の配当総額は602,680,755円となります。

(普通株式：402,580,755円、A種優先株式：200,100,000円)

(3) 剰余金の配当が効力を生ずる日

平成28年6月30日（木）といたしたいと存じます。

2. その他の剰余金の処分に関する事項

剰余金の処分につきましては、経営の健全な発展を期し、今後の経営環境を勘案して財務体質の強化を図るため、以下のとおりといたしたいと存じます。

(1) 増加する剰余金の項目及びその額

利益準備金 120,536,151円

(2) 減少する剰余金の項目及びその額

繰越利益剰余金 120,536,151円

第2号議案 取締役8名選任の件

本定時株主総会終結の時をもって、取締役全員（9名）は任期満了となります。経営体制の効率化のために1名減員して取締役8名の選任をお願いいたしたいと存じます。

取締役候補者は、次のとおりであります。

候補者番号	氏名 (生年月日)	略歴、地位、担当および 重要な兼職の状況	所有する 当行株式の種類および数
①	<p>再任</p> <p>もり とし ひで 森 俊 英 (昭和21年12月14日生)</p>	<p>昭和44年4月 株式会社富士銀行入行 平成7年5月 同行営業第四部長 平成12年6月 同行退職 平成12年6月 当行入行専務取締役 平成16年6月 当行取締役副頭取 平成18年6月 当行取締役頭取 現在に至る</p> <p>重要な兼職の状況 事業組合システムバンキング九州共同センター理事</p>	普通株式 100,000株
<p>取締役候補者とした理由 当行取締役頭取として経営経験も豊富であり、その豊富な経験や知見を当行取締役会において活かすことにより、取締役会の意思決定機能や監督機能の実効性強化が期待できるため、取締役候補者としてしました。</p>			
②	<p>再任</p> <p>さい とう しん いち 齋 藤 眞 一 (昭和27年8月27日生)</p>	<p>昭和50年4月 当行入行 平成5年6月 当行宮田通支店長 平成13年2月 当行卸本町支店長兼市内第三ブロック長 平成17年6月 当行取締役証券・国際部長 平成19年6月 当行取締役総合企画部長兼内部統制室長 平成21年6月 当行常務取締役経営企画部長 平成22年10月 当行常務取締役経営企画部長兼経営計画推進室長 平成25年6月 当行専務取締役 現在に至る</p>	普通株式 60,000株
<p>取締役候補者とした理由 経営企画及び財務面をはじめ、当行のさまざまな部門で豊富な経験と幅広い知見を有し、その豊富な経験と知見を当行取締役会において活かすことにより、取締役会の意思決定機能や監督機能の実効性強化が期待できるため、取締役候補者としてしました。</p>			

候補者番号	氏名 (生年月日)	略歴、地位、担当および 重要な兼職の状況	所有する 当行株式の種類および数
③	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">再任</div> まつ した ひろ し 松下弘志 (昭和32年8月21日生)	昭和55年4月 当行入行 平成10年8月 当行人吉支店長 平成17年10月 当行武町支店長兼市内第一ブ ロック長 平成19年2月 当行総合企画部部長代理 平成21年4月 当行審査部次長 平成22年6月 当行審査部長 平成23年2月 当行執行役員審査部長 平成25年6月 当行取締役審査部長 平成27年6月 当行常務取締役審査部長 現在に至る	普通株式 29,000株
	■ 取締役候補者とした理由 当行武町支店長兼市内第一ブロック長・取締役審査部長・現常務取締役審査部長を 歴任し、その豊富な経験と知識を当行取締役会において活かすことにより、取締役会 の意思決定機能や監督機能の実効性強化が期待できるため、取締役候補者となりました。		
④	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">再任</div> はる やま けいじろう 春山慶次郎 (昭和34年2月25日生)	昭和58年4月 当行入行 平成14年4月 当行吉野支店長 平成19年7月 当行審査部部長代理 平成20年4月 当行加世田支店長兼加世田ブ ロック長 平成23年2月 当行卸本町支店長 平成24年6月 当行執行役員卸本町支店長 平成25年6月 当行取締役営業統括部長兼支 店支援室長 現在に至る	普通株式 35,000株
	■ 取締役候補者とした理由 当行加世田支店長兼加世田ブロック長・執行役員卸本町支店長・現取締役営業統括 部長兼支店支援室長を歴任し、主に営業に携わり、その豊富な経験と知見を当行取締 役会において活かすことにより、取締役会の意思決定機能や監督機能の実効性強化が 期待できるため、取締役候補者となりました。		

候補者 番号	氏 名 (生年月日)	略歴、地位、担当および 重要な兼職の状況	所有する 当行株式の種類および数
⑤	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">再任</div> いち つば こう じ 市 坪 功 治 (昭和36年12月27日生)	昭和59年4月 当行入行 平成16年10月 当行上町支店長 平成18年4月 当行総合企画部企画課長 平成21年4月 当行総合企画部部长代理 平成23年7月 当行中央支店長兼宮田通支店 長兼市内第一ブロック長 平成25年6月 当行執行役員経営企画部長兼 経営計画推進室長 平成26年6月 当行取締役経営企画部長兼経 営計画推進室長 現在に至る	普通株式 25,000株
	■ 取締役候補者とした理由 経営企画部門を歴任し、業務全般を熟知しております。その豊富な経験や知見を当行取締役会において活かすことにより、取締役会の意思決定機能や監督機能の実効性強化が期待できるため、取締役候補者としてしました。		
⑥	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">再任</div> しょう の かず ひろ 正 野 和 広 (昭和37年6月8日生)	昭和60年4月 当行入行 平成14年10月 当行東谷山支店長 平成17年10月 当行鴨池支店長 平成19年7月 当行鹿屋支店長兼笠之原支店 長兼大隅ブロック長 平成21年2月 当行本店営業部部长代理 平成22年6月 当行営業統括部次長 平成23年2月 当行営業統括部支店支援室長 平成24年6月 当行執行役員営業統括部支店 支援室長 平成25年6月 当行執行役員卸本町支店長 平成26年6月 当行取締役本店営業部長 現在に至る	普通株式 28,000株
	■ 取締役候補者とした理由 当行執行役員営業統括部支店支援室長・執行役員卸本町支店長・現取締役本店営業部長を歴任し、特に営業分野でリーダーシップを発揮するなど、その豊富な経験や知見を当行取締役会において活かすことにより、取締役会の意思決定機能や監督機能の実効性強化が期待できるため、取締役候補者としてしました。		

候補者番号	氏名 (生年月日)	略歴、地位、担当および 重要な兼職の状況	所有する 当行株式の種類および数
⑦	<p>再任 社外</p> <p>たかだもりくに 高田守國 (昭和15年12月14日生)</p>	<p>昭和41年10月 鹿児島県入庁 平成8年4月 同県企画部長 平成11年3月 同県退職 平成11年4月 同県出納長就任 平成13年4月 同県副知事就任 平成14年6月 同県副知事退職 平成15年6月 当行監査役 平成24年6月 当行取締役 現在に至る</p>	<p>普通株式 10,000株</p>
<p>■ 取締役候補者とした理由</p> <p>鹿児島県出納長・副知事を歴任するなど財務・会計に関して相当程度の知見を有し、その豊富な経験と高い見識を活かし、社外取締役として当行の経営に適切な指導と提言をいただくため、社外取締役候補者となりました。</p> <p>なお、同氏は、直接会社経営に関与した経験はありませんが、上記理由により社外取締役としての職務を適切に遂行していただけるものと判断しております。</p>			
⑧	<p>再任 社外</p> <p>のまとしみ 野間俊美 (昭和16年2月22日生)</p>	<p>昭和36年4月 鹿児島地方裁判所入所 昭和51年8月 簡易裁判所判事任官 昭和51年10月 司法試験合格 昭和56年11月 簡易裁判所判事退官 昭和56年12月 鹿児島県弁護士会に弁護士登録 平成6年4月 鹿児島県弁護士会会長就任 平成7年3月 鹿児島県弁護士会会長退任 平成14年4月 弁護士法人鹿児島中央法律事務所設立 平成18年4月 法テラス鹿児島地方事務所長就任 平成24年4月 法テラス鹿児島地方事務所長退任 平成25年4月 弁護士法人野間法律事務所代表弁護士 平成27年6月 当行取締役 現在に至る</p>	<p>普通株式 10,000株</p>
<p>■ 取締役候補者とした理由</p> <p>弁護士として企業法務に精通し、その専門的な知識・経験等を社外取締役として当行の経営全般に反映していただくため、社外取締役候補者となりました。</p> <p>なお、同氏は、直接会社経営に関与した経験はありませんが、上記理由により社外取締役としての職務を適切に遂行していただけるものと判断しております。</p>			

- 注 1. 各候補者と当行との間には、特別の利害関係はありません。
2. 高田守國氏、野間俊美氏は社外取締役候補者であります。

3. 高田守國氏、野間俊美氏は現任の社外取締役であり、両氏の社外取締役の就任期間は、本定時株主総会終結の時をもって高田守國氏が4年、野間俊美氏が1年となります。
4. 当行は高田守國氏、野間俊美氏との間で、会社法第423条第1項に関する責任について、責任限度額を同法第425条第1項が定める額とする責任限定契約を締結しており、両氏の選任が承認された場合、当該契約を継続する予定であります。
5. 当行は、高田守國氏、野間俊美氏を福岡証券取引所の定めに基づく独立役員として同取引所に届け出ており、両氏の選任が承認された場合は、引き続き独立役員となる予定であります。

〈株主提案（第3号議案及び第4号議案）〉

第3号議案及び第4号議案は、2名の株主さまからの共同のご提案によるものであります。なお、提案株主さま（2名）の議決権の数は、311個であります。

各議案の「提案内容」及び「提案の理由」は、提案株主さまから提出されたものを原文のまま記載しております。

第3号議案 定款一部変更の件（日本銀行にマイナス金利政策撤廃の要望書提出）

1. 提案内容

以下の条文を定款に加える。

「日本銀行総裁に当行頭取がマイナス金利政策撤廃の要望書を手渡す」

2. 提案の理由

日本銀行（以下日銀）の導入したマイナス金利は金融機関（＝株主）だけに負担を求める行為。貸出を伸ばしお金の回転を良くし景気回復させ収益を上げる狙いは思うように行っていない。

貸出は伸びず、個人の住宅ローンが伸びてはいるが借り換えが中心で収益拡大に結びついていない。無理に信用度の低い者に貸しても不良債権となるだけで金融危機の教訓が生かされていない。特に地域密着型の地方銀行などは大手のように海外強化進出と言う訳にもいかずダメージが直撃する。銀行生保・郵政3社の株価大暴落で多くの投資家心理が冷え切って個人消費は更に落ち込みの悪循環となっている。日銀は特定の業種に負担を求めるのではなく、別の政策をするように頭取が要望書を日銀総裁に手渡して頂きたい。

◇ 当行取締役会の意見

当行取締役会としては、**本議案に反対**します。

平成28年1月29日に日本銀行が導入を決定したマイナス金利政策については、2%の物価安定目標をできるだけ早期に実現するために導入されたものと認識しております。また、この金融緩和によって実体経済への働きかけを活発化することを目指しており、金融機関の収益の過度な圧迫により金融仲介機能が低下するようなことがないよう、日銀当座預金について3段階の階層構造とする適用金利を採用しております。

これらを踏まえると、今般のマイナス金利政策による当行経営への直接的な影響は限定的であると認識しており、本政策が目指す「資金需要の喚起」と「金融仲介機能の発揮」に対し、これまで以上に注力してまいります。

また、第二次経営強化計画より当行独自の施策として取組んでいる「WIN-WINネット業務」（新販路開拓コンサルティング）をさらに深化させ、お取引先との強固なリレーションを構築することによって、過度な金利競争を回避するとともに、地域経済の浮揚・活性化につなげていくことが重要であると考えております。

したがって、定款に本議案のような規定を設けることは不要と考えます。

1. 提案内容

以下の条文を定款に加える。

「2016年度中に公的資金を全額返済する」

2. 提案の理由

当行はすでに公的資金に頼らずとも新BIS規制をクリアしており、公的資金を注入されている意味がない。公的資金の株主が財務大臣ならともかく「整理回収機構」では破綻銀行をイメージさせイメージダウンと他行との提携をするにも悪影響がある。

公的資金は貸し付けに回し地域活性につなげると言う約束で注入されているが、すでに“マイナス金利”での預け入れをしており資金に余剰があることが分かる。公的資金には高い配当をしており早急に返済し、日本銀行の間違った政策“マイナス金利”での預け入れを抑制すれば無駄なコストが二重に削減できる。削減分を普通株の株主に増配して頂きたい。

◇ 当行取締役会の意見

当行取締役会としては、**本議案に反対**します。

当行は、平成21年3月に公的資金を受け入れて以来、改正金融機能強化法の趣旨を踏まえ、地域の中小事業者への円滑な資金供給や経営支援等を行うための「資本」として活用し、地域経済の活性化に努めてまいりました。今後につきましても、本年4月に発生した熊本地震の影響など先行きは不透明な状況にあることから、引き続き地元・地域経済を支えるために役立てていきたいと考えております。

また、当行では公的資金の受け入れに際してA種優先株式を発行しておりますが、他の資本調達手段と比べ有利な条件で調達できているものと認識しております。

今後も普通株式の配当につきましては、当行の決算状況等を総合的に勘案したうえで、適切に判断してまいります。

したがって、定款に本議案のような規定を設けることは不要と考えます。

以 上

